



IBARAKI TOYOPET  
RACING TEAM

## GR86/BRZ Race 第1戦 鈴鹿サーキット

中山雄一選手と、新たなチャレンジ開始！  
第1戦はバトルを楽しんで、ここからの飛躍を誓う！



GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズ第1戦

2019年3月23～24日 鈴鹿サーキット（三重県）

晴れ 8周（32台出走）

ドライバー：中山 雄一

予選15番手／決勝14位



2019年は茨城トヨペットレーシングにとって、新たなチャレンジのシーズンとなる。まず、チームの母体である茨城トヨペットが3月末に「GR Garage つくば」をオープンすることもあり、マシン名を「GR Garage つくば 86R」に変更。さらにドライバーもスーパーGTのGT500に参戦する中山雄一選手を新たに起用し、GR 86/BRZ レース プロフェッショナルシリーズに挑むこととなった。チーム設立から5年目、プロフェッショナルシリーズへの参戦は3年目、もちろん狙うは表彰台の獲得、さらに悲願の初優勝である。

これまでレーシングカートからドライバーのキャリアを開始し、フォーミュラ、ツーリングカー、GTカーなどさまざまなレーシングカーをドライブしてきた中山選手だが、唯一なかったのがナンバーつき車両での本格的なレース経験。改造がほとんど許されないがゆえのロール感、電子制御等の制御に、当初は違和感を覚えていた。だが、2月中旬の初テストを皮切りに、走行の機会を与えられるごとく感覚をつかんでいたのは、徐々にタイムアップしていたことから明らかだった。

さて、迎えたシリーズ開幕戦の舞台は鈴鹿サーキット。今年から8大会中6大会が2ヒート制になるが、今回は従来どおりの1ヒートで争われる。レースウィークの金曜日に行われた、本戦への最終調整ともなる専有走行において、中山選手は2分31秒290をマーク。ただし、トップとはほぼ1秒の差があり、15番手に甘んじてはいた。

土曜日の午後には、いよいよ予選が。計測は15分間。多くの車両が走行を重ねたセッション後半の方が路面コンディションは向上しがちだが、途中で赤旗でも出されようなら、せっかくの攻撃が水の泡と化す可能性もある。そこで中山選手は大事をとって、計測開始と同時にコースインすることとした。攻撃のチャンスは今さら言うまでもないが、一度のみ。しっかり前後との間隔を整え、1周にすべてを賭けていく。

そして記されたのは2分30秒906。レースウィークの自己ベストを更新し、その時点での7番手につける。その直後に130Rでストップした車両があって赤旗中断となるも、すでに攻撃を終えていた中山選手に影響が及ぶことはなかった。だが、その間の計時は継続されず、残り時間そのままに再開されたため、中山選手のタイムを上回ってくる者も続出。その結果、中山選手は15番手からレースを開始することとなった。

「赤旗の前に攻撃を終えられたので、その影響がなかったのは良かったです。自分の中では水曜日の練習から徐々にゲインしていった、予選がいちばんタイムは良くて、右肩上がりで行けているのですが、トップとは1秒の差があって、まだまだクルマの方向性とドライビングの仕方をうまく理解できていないので、そこが現時点での課題です」（中山選手）

日曜日の午前に決勝レースが8周で競われた。中山選手が並ぶのは8列目のグリッド。過去において、ほとんど経験したことがないポジションからのスタートであるはずだ。普段とは異なる緊張感の中で切ったスタートは、ダッシュのタイミングは問題なし。

だが、その直後に若干の加速の鈍りがあったこと、そして1～2コーナーのアプローチを見誤ったことで、中山選手は一気に3台の先行を許してしまう。そして、その直後のS字コーナー、ダンロップコーナーで相次いでアクシデントが発生。車両回収のため、1周のセーフティカーランが実施される。

リスタートもそつなく決めた中山選手は、その後バトルを繰り返しながら、着実に順位を上げていく。ラップタイムも2分33秒台でリズムを刻み、最後は14位でフィニッシュすることとなった。もし、スタート直後の出遅れがなければ……と感じさせた一方で、いきなりの優勝も夢ではないと期待を込められていた中山選手である。かつてなかったほどの洗礼となったのは間違いない。

とはいえ、これまで経験してきたシリーズすべてで、中山選手は結果を残してきた。今後どこまで飛躍してくれるのか、むしろ期待は高まる一方である。

次回のレースは4月20～21日に、富士スピードウェイで開催される。初めての2ヒート大会ということもあり、86/BRZレースでの経験値がリセットされる可能性も！

### #18 中山雄一選手のコメント



「スタートは反応良く、蹴り出しも良かったのですが、2速に入れる直前でホイールスピンさせてしまったのと、1コーナー～2コーナーでアウトサイドを通ったことで、すごく滑ってしまい、コースアウトに近いぐらい飛び出してしまったので、インから2、3台に抜かれてしまいました。決勝のペースはあのあたりでは普通だったと思いますが、トップからはコンマ5秒ぐらいの差がありますから、そこをもっと詰めないと。制御の入り方など、ひとりで練習を走っているよりレース中の方が分かりやすく、まだまだ勉強が必要だと実感しました。レース自体はすごく楽しくて、でも楽しい以上に緊張するポジションで走りたい、というのが本当のところです」



**GR86/BRZ Race**

**BRIDGESTONE**

Racing Development  
**TRD**

**PMU**

**BILLION**  
OILS

**BRIDE**